

## カレッジ里山 花実の森 活動報告(2017年5月-2) 第83号

活動日 2017年 5月 21日(日)	時間 9:30~12:00	天候 (晴)	記録者 (菅田)
公募参加者 14 家族 42名 スタッフ 14名	(スタッフ) 磯野彰夫 菅田忠志 黒子弊吾 松本治美 小林澄夫 倭貴志子 橋野美子 山田喜義 米倉 進 田路義弘 片岡隆夫 塩ノ谷年子 井口久美子 (本部) 増井理事		
今回実施した 内容	<b>親子カブトムシ生育観察会(2017年第1回 幼虫観察)</b>  親子自然体験型環境学習として企画し、(公財)こうべ市民福祉振興協会の協力を得て公募しました2017年度『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り体験するイベント。今回は3回シリーズの1回目。  幼虫観察と成虫への生育場所兼今年の成虫の産卵場所を子どもたちに作ってもらう。見つけた幼虫を1つずつ自宅飼育用に持ち帰ってもらった。  また、余った時間で小枝を使った『小鳥笛』を作ってもらいおみやげにした。		
写真記録	  		
本館受付後、花実の森に向かって出発。	入口でヘルメットを渡して着用。	里山の働きや、カブトムシの棲む環境の話も。	
			
途中、昨年の観察会生育場所で少し幼虫探しをやってみたところ、大きな3歳幼虫に育っていた。今回はここではないのでそっと元に戻す、	幼虫探しを始める前に、カブトムシの一生の説明をしておく。		
			
2班に分かれての作業。いのしし除けの金網を撤去し、掘り出し準備にかかる。	子どもたちはどんどん見つけ出し、ひとり3~4匹で合計50~匹くらい掘りだす。		



初めて体験する子どもたちにとっては、予想外の大きさだったようで、驚いていた。



掘りだした幼虫は、一段上に準備しているしっかりした金網で囲ったサナギ～成虫生育場所へ引越しさせるため、腐葉土と一緒に袋に入れて運んでもらう。



生育・産卵場所をしっかり作り上げていく。  
6月に入れば、成虫の飛び去り防止の金網蓋を取り付けることになる。



今回はもう一つの楽しみ工作『小鳥の鳴き笛』づくり。  
6cmの長さに切断した小枝に、ドリルで7mmの穴を開けてもらい、8mmのアイボルトをねじ込む。



作った『小鳥の鳴き笛』も、はじめのうちはなかなか音が出にくかったが、何度も締め戻しを繰り返すうち、「キユルルッ」となり始めた。段々小鳥そっくりな音に。

持ち帰りの幼虫は成虫までしっかり育てて卵を産ませ、家でまた幼虫から育てるんだよ～

